

KAGAWA アンバサダーからのお便り～安藤光浩さん～

運命の街



「もしスペインに1日しかいられないなら、迷わずトレドに行け！」という格言がある。トレドの素晴らしさをお伝え出来る言葉を、残念ながら私は持ち合わせていない。

世界遺産都市、世界で最も美しい街、世界一の夜景、世界最高文学ドン・キホーテ、世界三大絵画エル・グレコ。どれほどの美辞麗句を冠しても、迷路のように入り組んだ石畳の細い路地を歩く時に感じる不思議な感動には、到底及ばない。自分が自分の知らない自分でできているという感覚に襲われるのだ。何百年も変わらないこの路を歩くと、時空を超えて、歴史上の人物を想起せずにはいられないからだろうか——もちろん、そんなことはこれっぽっちも意識せずに。（人生の旅の意味を求めながら歩く、四国巡礼に少し似ているかもしれない。）

1582年、日本人として初めてトレドを訪れた天正遣欧使節の伊東マンショや千々石ミゲルたち、その30年後の支倉常長と慶長遣欧使節もこの石畳を踏みしめている。彼らは、日本に帰国後、為政者たちの闘争に巻き込まれ悲惨な最期を遂げざるを得なかった。けれども、まさか四世紀後に、スペインと日本両国の芸術家たちの手によって、彼らからインスピレーションを得た多くの作品が、世に生み出されることになるとは想像もしていなかっただろう。（註1：キモノバタ）



トレドの路地

面白いことに、彼らがトレドに滞在した時期とエル・グレコが活躍した時期がぴったり重なりあっている。この路地のどこかで偶然彼らはすれ違っているかもしれない。想像するだけでも胸が熱くなる。

かつて何世紀にもわたり「ユダヤ教徒」「キリスト教徒」「イスラム教徒」が共存する平和な街として理想社会が築かれていた、古都トレド。

今も、ここに住む人たちの眼差しは奥深くどこまでも温かい。おかげで、異郷の地でここまで歩んで来ることが出来た。私はこの街に感謝してもしきれない。



日本で 2020 年、世界一美しい夜景にトレドが選ばれ
こちらでも大きなニュースになりました。

2025年3月 トレド

安藤光浩

(註1) 2022年、フラメンコドレスと着物を融合させた「キモノバタ」の展覧会がスペインと日本で開催された。セビーリャ、マラガ、バレンシア、神戸、東京で巡回。有名なデザイナーマヌエル・フェルナンデスが企画、両国を代表する20名の作家（ゴルディーリョ、カノガール、バルデス、アイサ、レクエンコ等）が参加した。私にも声がかかりびっくり、勿論参加しました。（笑）



安藤 光浩（あんどう てるひろ）さん

善通寺市出身。

1985 年、東京の美大卒業後渡欧。以降 40 年間スペインで美術家として活躍。2008 年、同国で最も権威ある現代美術賞「BMW 賞」受賞、スペイン王妃より褒章授与。スペイン三大現代美術展すべてでグランプリ受賞など大小合わせて 50 を超える現代美術賞を授与された唯一の作家。王立芸術科学歴史アカデミー客員。世界 60 超の美術館に作品が収蔵されている。

◇KAGAWA アンバサダーについて

香川の魅力を世界へ発信するとともに、本県の諸課題に対する情報提供、活動、提言等を行っていただく大使です。主に世界を舞台に活躍している香川県出身者や県にゆかりのある方で、各界から候補者の推薦を受け、識者による選考後、知事が委嘱しています。

◇KAGAWA アンバサダーからのお便りについて

県民の方々に KAGAWA アンバサダー事業及び県の国際化の推進について、より理解を深めていただくことを目的に、世界を舞台に活躍されている KAGAWA アンバサダーの方々から在住国や御自身の活動等について御紹介いただくものです。